

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102877		
法人名	第2まこと会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	岡山県岡山市東区中尾1036		
自己評価作成日	平成23年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370102877&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コミュニケーションをとり寄り添うケアを提供し、笑顔で安心した生活が送れるように努めています。「共に生活する」という視点に立ち、利用者自身の存在感や役割を大切にしています。有機農法で作られた旬の野菜を使い、入居者と一緒に手作りし、食生活の充実を図っています。ボランティアの受け入れや、外出する機会を多く受け、社会との関わりを維持しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山市東部の丘陵と田園に囲まれた場所にホームはあり、「まほろば」の名に相応しい「至上の楽園」を目指すという大切な役割を担っている。母体法人は高齢者福祉施設を総合的に運営し、地域に根ざした開かれた施設でありたいと願い、環境の整備や地域交流などにも力を入れている。総合施設の利点を活かした、多面的な支援ができることは、利用者・家族の大きな安心に繋がっている。「寄り添うケア、不安のないその人らしい自立した生活」という目標を掲げ、管理者の下、職員全員で利用者の人格を尊重し、役割を持って生活ができるように支援を行っている。記録や書類の管理も行き届いており、利用者の状況把握や情報の共有ができることが家族との関係作りにも役立っている。何より職員が楽しく仕事ができると話してくれた姿勢が、入居者利用者の笑顔や信頼に結びつくものであると評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「至上の楽園を目指す」という母体法人の理念を理解共有し、入居者が安心して暮らせる事を心がけている	法人の理念をリビングに貼りだすとともに、事務所内にホーム独自の目標を掲げている。管理者の下、職員全員で共有認識を図り、寄り添うケア・不安のないその人らしい自立した生活の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会、振興祭り、年2回「元気の出る会」に参加、月2回 食事作りのボランティアの受け入れ等地域との交流を図っている	人とのつながりを大切に、開かれた事業所でありたいと強く願っている。小学校・公民館行事への参加や食事作りのボランティア受け入れ、夏祭りなどの法人行事への参加などと地域との交流が日常的に長年継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例等、出席者からの意見をもらいサービス向上に生かしている	日程が年間計画であらかじめ取り決められており、参加しやすくなっている。2ヶ月毎に開催し、ホームの状況、防災訓練実施、困難事例の検討などの報告と、意見交換を活発に行うことで、サービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サブセンターの方には、運営推進会議に参加して頂きながら、内部の実情を理解頂き協力関係を築くよう取り組んでいる	法人内にサブセンター委託の設置があり、連携は図りやすい。ホームの実情やサービスの取り組みを理解してもらえよう、運営推進会議への参加等継続的に働きかけを行っている。	行政当局への積極的なアプローチは、地域関係者との関係強化や法人への理解へと繋がっていくものと考えられる。今後も継続的な働きかけに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、身体拘束についての内容は認識しており、玄関を開放し、自由な暮らしを支援している	法人主体の身体拘束委員会を年4回実施。ホーム会議においては、職員全員で共通理解を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。認知症についての理解を深めて、不穏時には気分を変えるための声かけをするなど、状況に合った寄り添うケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、あるいは改定時等は説明を十分行い納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場にて反映している	毎月発行の「まほろば便り」で日頃の様子を写真付きで報告している。面会時・担当者会議・運営推進会議などに、家族の意見や要望を伺い、ホーム会議・調整会議・合同会議で検討して、運営への反映を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議での意見交換、又年2回の人事考課で提案等聞き運営に反映させている	毎月定期的にホーム会議を開催。職員全員が出席し、意見交換や個別の対応についてなどの話をする機会となっている。職員からの意見は、法人全体の会議で検討され、環境整備やサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施、勤務表確認、給与集計等把握、年3回の面談等で意見交換（月1回会議出席）をし、職員処遇への反映、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内の研修と経験や習熟段階に応じた法人外の研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会の実施している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らして頂く為に、不安や要望等傾聴し職員との信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等傾聴し家族との信頼づくりの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極め、徐々に馴染み安心出来る様な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ひとり一人の個性や能力の把握に努め、自分で出来る事や、やりたいと意欲を持つ事を さぐりホームでの役割づくりに生かしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、共に本人を支え、より良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の面会や、馴染みの理・美容院を利用して、関係が途切れないようにしている	家族・親戚・友人の面会が頻回にあり、利用者の将棋の相手をしてくれることもある。外泊や外出も可能となっており、馴染みの美容院へ行く、他事業所の利用者を訪問するなど、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士に席を設け、孤立しないように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入居者の方に面会し、今までの関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し一人ひとりの思いや、希望等の把握に努めている 困難な場合はサービス担当者会議や月1回の会議で検討している	面会時に個人記録を家族に確認してもらい、思いや意向の把握に努めている。役割を持って生活ができるように、会話や態度の変化に気を配っている。業務日誌や個人記録も詳細に記録されており、状態の把握ができてい	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時にコミュニケーションを図り、情報得て、これまでの生活の把握に努めている、又本人の通常の会話からも、情報の引き出しに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、及び連絡ノート・伝言板等の職員間の情報共有にて現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング状況を家族と話し合い、次回へのプランに繋げている サービス担当者会議で意見交換、家族の要望を反映、月一回の会議でモニタリングを行っている	毎月のホーム会議でモニタリングを実施。次回の計画作成に繋げている。概ね半年ごとに作成し、サービス担当者会議に家族が参加することもあり、家族や職員の意見が反映された現状に即した計画作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入、月一回の会議でモニタリングを行い意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域での催し、元気の出る会(年2回)・公民会文化祭等に参加、又お花見・紅葉狩りに家族と共に参加し、出て行く機会を増やし地域との交流に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回の食事作りと、定期的には大正琴のボランティアを受け入れ、豊かな暮らしが出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望にて、かかりつけ医の往診が月2回ある	法人の提携医がかかりつけ医となり月2回の往診があり、緊急時には提携病院への受け入れが可能である。家族の協力で、入居前からのかかりつけ医や認知症専門医への受診もあり、適切な医療を受けられる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常に気づいた場合は、法人内の看護師やかかりつけ医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談や情報交換し、病院関係者との関係づくりを行いスムーズに退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りはしていないことを契約時に説明して了解を取っている 重度化した場合は家族と話し合い、方針を共有し、医師に相談している	現在ホームとしては看取りはしていないことを契約時に説明を行い、了承を得ている。状態の変化に合わせて家族と話し合い、医師とも相談しながら方針を決めている。また、法人内に他事業所などの受け皿があることは、利用者・家族の大きな安心に繋がっている。	将来的に利用者の重度化に対応して、さまざまな講習や研修の機会を持ち、さらに知識の習得や介護技術の向上を図って、スキルアップができることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の緊急時のマニュアルは提示し、職員は常に念頭に置いている 緊急時等の訓練は定期的には行っていないが、急変や事故発生時の対応は、法人内の研修で身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署の協力を得て、法人全体の避難訓練を実施し、協力体制を築いている 事務所に避難袋を備え、警察・消防署への緊急連絡網を整備している	年2回、消防署の協力を得て法人全体の避難訓練と、地域住民の協力を得てホーム独自の訓練を行っている。法人での備蓄や事務所内の避難袋の設置や緊急連絡網の作成など、災害対策にも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな場所での礼儀をわきまえ、居室はノックをして許可を得て入っている 自尊心を傷つけないような言葉かけや対応をして いる	「洗濯物を部屋に入れていいですか」と居室に入る前に許可を得たり、トイレのドアの内側にカーテンを設置するなど、人格を尊重する配慮が見られた。思いに寄り添って、自然に過ごしてもらえるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや衣服、外食日には、メニューから好みの料理を選んでもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴、外出、昼寝に至るまで一人ひとりのペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問美容院の日に散髪する方が多い いい馴染みの理・美容院に行く方もいる 季節や本人の好みに合わせた服装で、おしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立で、皮むき等の下準備を一緒に行っている バイキングや選択食を楽しんでいる 湯のみ・箸は自分の物を使っている	有機栽培の野菜や旬の食材にこだわった食事を提供し、ボランティアによる食事作りやバイキングなどの楽しみもある。お茶碗・湯飲み・箸は自分のものを使い、利用者は下ごしらえなどの個々に合った出来る事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況により水分補給等に配慮している 咀嚼機能低下の方には、小さめに刻み食べ易くしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きうがいは、本人の力に応じた支援をしている 週2回義歯は洗浄剤使用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をした後は、排泄チェックシートに記入している	排泄パターンを把握して、誘導時には尊厳に配慮した細やかな声かけや柔軟な対応に努めている。夜間もポータブルの使用はせず、トイレでの排泄支援を心がけており、排泄チェックシートで確認が出来るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、一人ひとりの状態に応じて散歩を行っている ヨーグルトやヤクルトを献立の中に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をしたがらない入居者の場合は、時間をずらして別な職員が再度声かけをして、入浴を勧めている	入浴は3日毎が基本だが、希望すれば毎日入ることもできる。ゆず湯や入浴剤の使用などの楽しむ工夫や、場合によって二人介助をするなど安全への配慮も見られる。無理強ひせずに状況により清拭対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活の中で、リハビリ活動により身体を動かし、安眠への誘導を支援している 眠れない場合は、飲み物を勧め、お話する等して落ち着いてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を記入している 薬は職員が管理し、毎食後の薬を容器に分類し食事後に一人ひとりに名前を読み上げながら手渡し服薬確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やり・生け花・塗り絵・貼り絵・配膳等役割を果たしていただけるように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食日を設けて出かけたり、お花見・紅葉狩りを企画し外出を支援している 利用者のその日の希望に沿い、施設内の池の回りを散歩している	法人敷地内に鯉や鴨がいる池があり、餌やりをかねて散歩に出かけるなど、日常的に外出の機会を作っている。月に1回外食に出かけたり、お花見や紅葉狩りなどの行事には、家族や地域住民の参加もあり、楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけ日用品等購入出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等いつでも電話で話しができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には入居者の貼り絵や写真を貼り、窓際には季節の花を飾り、温かい雰囲気作りを工夫している	リビングからは四季の景色を眺望でき、ベランダには季節の花や野菜が植えられている。畳スペースにはテレビやソファが置かれ、利用者が思い思いに過ごすことができる。行事の写真や季節の飾りつけを行い、温かく落ち着いた雰囲気の空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナー・玄関口のベンチ・テーブル等の中での居心地良い場所で、一人又は気の合う同士で過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や家族の写真、使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、安心して過ごせるよう配慮している	全室畳敷きで壁の一方がふすま形式であり、和室の落ち着いた雰囲気作りがなされている。居室内は、今まで愛用してきた家具や仏壇などを持ち込んだり、家族の写真を飾ったりと、居心地良く過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印として表札等を掲げ、間違いを防ぐようにしている 入居者の行動には常に注意をして、間違った方には他の入居者に気付かれないよう、さりげなく対応している		